

# 2021年度 上半期業績の概要

2021年11月25日

 大樹生命保険株式会社  
 日本生命グループ

1. 決算のポイント	… P 1
2. 収支の状況	… P 2
3. 新契約の状況〔個人保険＋個人年金保険〕	… P 3
4. 保有契約の状況〔個人保険＋個人年金保険〕	… P 4
5. 保有契約の状況〔団体保険・団体年金保険〕	… P 5
6. 損益計算書・貸借対照表・健全性	… P 6
7. 当社における新型コロナウイルス感染症への対応	… P 7

# 1. 決算のポイント

- 2021年度上半期決算は、増収・増益
- 保険料等収入は、海外金利の上昇に伴い、一時払外貨建養老保険の販売が増加したことから増収
- 基礎利益は、海外金利上昇に伴う外貨建保険の最低保証に係る責任準備金の戻入により、危険差益が増加したことを主因に増益
- 健全性を示すソルベンシー・マージン比率は、劣後債務残高の減少等により前年度末から60.9ポイント減少の1,114.3%

## 2. 収支の状況

- 保険料等収入は、海外金利の上昇に伴い、一時払外貨建養老保険の販売が増加したことから、前年同期比23.6%増の2,839億円。
- 基礎利益は、海外金利上昇に伴う外貨建保険の最低保証に係る責任準備金の戻入により、危険差益が増加したことを主因に、前年同期比51.8%増の214億円。

(単位: 億円、%)

区 分	2020年度 上半期	2021年度 上半期	
		2021年度 上半期	前年同期比 増減率
保険料等収入	2,297	2,839	+ 23.6
基礎利益	141	214	+ 51.8
利差損益	▲ 154	▲ 131	△ 14.9
費差損益	▲ 6	6	-
危険差益	302	339	+ 12.3

(注) 増減率の”△”は改善



### 3. 新契約の状況〔個人保険＋個人年金保険〕

- 新契約年換算保険料は、前年同期に営業活動を自粛していたことの反動、および海外金利の上昇に伴い、一時払外貨建養老保険の販売が増加したことから、前年同期比62.4%増の121億円。

(単位:千件、億円、%)

区 分	2020年度 上半期	2021年度 上半期	前年同期比
			増減率
新契約件数	46	66	+ 43.1
新契約高	2,183	3,365	+ 54.1
新契約年換算保険料	74	121	+ 62.4

(注)「新契約件数」は、新契約に転換後契約を加えた数値。



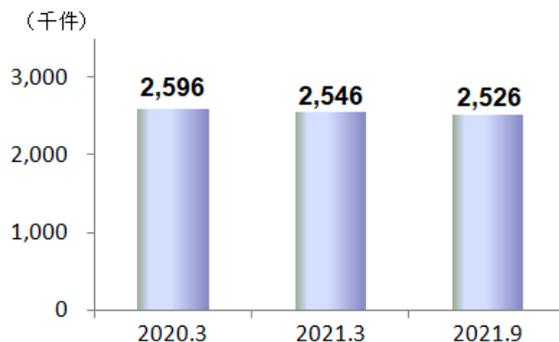
## 4. 保有契約の状況〔個人保険＋個人年金保険〕

- 保有契約年換算保険料は、解約・失効等による減少が新契約による増加を上回ったため、前年度末比1.3%減の5,078億円。

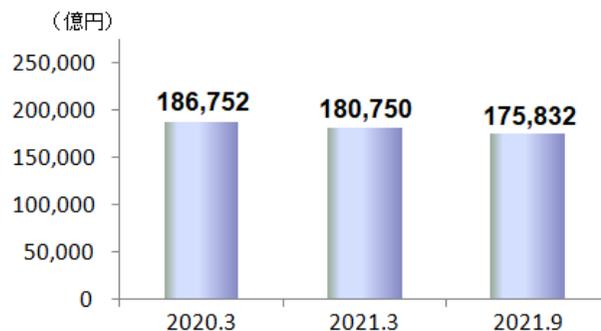
(単位:千件、億円、%)

区 分	2020年度末	2021年度 上半期末	前年度末比
			増減率
保有契約件数	2,546	2,526	▲ 0.8
保有契約高	180,750	175,832	▲ 2.7
保有契約年換算保険料	5,147	5,078	▲ 1.3

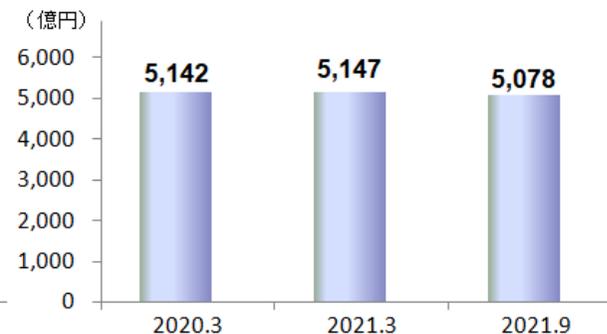
保有契約件数



保有契約高



保有契約年換算保険料



## 5. 保有契約の状況〔団体保険・団体年金保険〕

- 団体保険（保有契約高）は、総合福祉団体定期保険の保有が増加した一方、団体定期保険および団体信用生命保険の保有が減少したことから、前年度末比1.3%減の1兆5,708億円。

（単位：億円、％）

区 分	2020年度末	2021年度 上半期末	前年度末比
			増減率
団体保険（保有契約高）	117,250	115,708	▲1.3
団体年金保険（保有契約高）	7,801	7,838	+0.5
一般勘定	6,646	6,645	▲0
特別勘定	1,154	1,192	+3.3

（注）団体年金保険の保有契約高は、責任準備金の金額。



## 6. 損益計算書・貸借対照表・健全性

- 中間純利益は、固定資産の減損損失を特別損失として計上したことにより、78億円の純損失。
  - ソルベンシー・マージン比率は、劣後債務残高の減少等により、前年度末から60.9ポイント減少の1,114.3%。
- 実質純資産額は、有価証券の含み益の増加等により、前年度末比2.7%増の1兆3,670億円。

### <損益計算書>

(単位:億円、%)

区 分	2020年度 上半期	2021年度 上半期	前年同期比 増減率
経常収益	4,048	3,649	▲ 9.9
保険料等収入	2,297	2,839	+ 23.6
資産運用収益	1,673	736	▲ 56.0
経常費用	3,970	3,456	▲ 13.0
保険金等支払金	2,294	2,459	+ 7.2
資産運用費用	248	402	+ 62.1
事業費	435	440	+ 1.1
経常利益	78	193	+ 147.6
中間純利益又は中間純損失(▲)	14	▲ 78	—

### <有価証券 含み損益>

(単位:億円)

区 分	2020年度末	2021年度 上半期末	前年度末比 増減額
有価証券	6,802	7,177	+ 374
国内公社債	3,697	3,743	+ 46
国内株式	1,924	2,117	+ 193
外国証券	1,058	1,163	+ 105
その他	122	152	+ 29

(注) 市場価格のない株式等および組合等は除いて算出

### <貸借対照表・健全性>

(単位:億円、%)

区 分	2020年度末	2021年度 上半期末	前年度末比 増減率
総資産	79,643	78,776	▲ 1.1
有価証券	60,007	59,800	▲ 0.3
貸付金	9,816	9,574	▲ 2.5
有形固定資産	2,301	2,087	▲ 9.3
負債	73,810	72,808	▲ 1.4
保険契約準備金	65,098	65,113	+ 0.0
責任準備金	64,294	64,321	+ 0.0
純資産	5,833	5,967	+ 2.3
ソルベンシー・マージン比率	1,175.2%	1,114.3%	▲ 60.9 ポイント*
実質純資産額	13,314	13,670	+ 2.7
実質純資産比率	17.1%	17.8%	+ 0.7 ポイント*

(注1) \* のポイントは前年度末との差。

(注2) 「実質純資産比率」 = 「実質純資産額」 ÷ 「一般勘定資産」。

## 7. 当社における新型コロナウイルス感染症への対応

- 新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けている皆さまに心からお見舞い申し上げます。当社では、お客さまと従業員の安全・安心を最優先として感染拡大防止を徹底しつつ、適切な営業活動やお客さまへの心のこもったサービス提供を図っています。

### 【営業活動における取組み】

お客さまのアポイント取得を前提とした訪問活動や、対面を希望されないお客さまへは電話や郵送およびオンラインの活用によるご契約内容の説明を行うなど、感染予防対策を徹底のうえ、営業活動を行っています。

### 【ご契約に対する各種お取扱い】

保険金・給付金・契約者貸付金の簡易迅速なお支払い（必要書類の一部省略など）、同感染症を直接の原因としてお亡くなりになった場合、「災害死亡保険金」等の支払対象とするなど、各種のお取扱いを行っています。（2021年11月25日時点）

### 【新型コロナウイルス感染症による保険金や給付金の支払状況】

（2021年4－9月）

- 死亡保険金：約170件、約9.2億円
- 入院給付金：約4,860件、約6.3億円